

第１回 小平市子ども・子育て審議会 会議録	
日時	令和４年５月２７日（金） 午後１時３０分～３時００分
場所	小平市中央公民館 ２階 ホール
出席者等	子ども・子育て審議会委員 １５人（欠席１人） 加藤大典、金子恵一、黒田育子、三瓶恵、清水達也、神保佳世子、高橋稚香、 竹内よし子、田畑多賀子、田村寛、中山恵理子、成澤愛、福田陽子、師岡章、 山下健（五十音順） 事務局 ９人 子ども家庭部長、子育て支援課長、子育て支援課長補佐、保育課長、保育課長補 佐２人、健康推進課長、地域学習推進課長、教育施策推進担当課長 傍聴人 ４人
議事	（１）認可保育園開園時（令和４年４月）の園庭面積の縮小について、市議会に おいて地方自治法第１００条に基づく調査特別委員会が設置されたことに 伴い、当該特別委員会における調査が終了するまでは、本審議会では本件を 取り扱わないことについて（報告） （２）学童クラブの現状について （３）保育事業の現状について （４）その他
配布資料	・令和４年度第１回小平市子ども・子育て審議会 会議次第 ・資料① 学童クラブの現状について ・資料② 保育事業の現状について
記録の作成者	子ども家庭部子育て支援課
１．開会	
２．議事	

(1) 認可保育園開園時（令和 4 年 4 月）の園庭面積の縮小について、市議会において地方自治法第 100 条に基づく調査特別委員会が設置されたことに伴い、当該特別委員会における調査が終了するまでは、本審議会で本件を取り扱わないことについて（報告）	
会長	<p>それでは「認可保育園開園時（令和 4 年 4 月）の園庭面積の縮小について、市議会において地方自治法第 100 条に基づく調査特別委員会が設置されたことに伴い、当該調査特別委員会における調査が終了するまでは、本審議会で本件を取り扱わないことについて」について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>前回の審議会で本年 4 月に開園のまなびの森保育園花小金井が当初の計画と異なる縮小した園庭面積となった事について報告し、引き続き園庭拡張に向けて市として進行管理を行い、本審議会に報告する旨を御説明しましたが、その後、3 月 29 日に小平市議会において、地方自治法第 100 条に基づく調査特別委員会が設置されました。この地方自治法第 100 条に基づく調査特別委員会は、いわゆる 100 条委員会と言われ、市町村などの地方公共団体に事務に関する調査を行い、関係者の出頭や証言、記録の提出を求めることができるなど、強い調査権限を持つ調査特別委員会です。また調査特別委員会で虚偽の証言をした場合は、5 年以下の禁錮刑、正当な理由がないのに証言を拒否した場合などは、6 ヶ月以下の禁錮刑や 10 万円以下の罰金を科すことができるなど、罰則規定があります。今現在この調査特別委員会において、本件の園庭縮小についての調査が行われています。また、今後担当職員などが証人・参考人として調査特別委員会に出頭する可能性があります。従いまして、本件の園庭縮小については、強い調査権限を持つ調査特別委員会が調査を行っていることから、本審議会においては、調査特別委員会の調査に影響が及ばないよう、また本審議会の審議に影響がないよう調査特別委員会における調査が終了するまでは、本件を取り扱わないこととします。御理解のほどよろしくお願いします。</p>
会長	<p>ただいま説明のあったとおりですので、皆さん御了解いただけますか。</p>
委員	<p>理解はしましたが、あくまで意見として述べさせていただきたいことがあります。内容などについては 100 条委員会で、ということは充分理解しています。そしてそれが健全に審議されることを望んでいます。そして私ども私立幼稚園協会、保育園のほうもそうだと思いますが、同じような仕事をしている者としてはなぜこのようなことが起こってしまったのか、大変に疑問を感じていますし、それから保育課のこのことに対しての経緯とか関わり方とか、それから公募のあり方だ</p>

	<p>とか、そういうことに関して、たいへんに保育課の責任もあるのではないかと私達は思っているところです。そしてこのことが審議されて、明らかになっていくと思いますが、市民としてもどうしてこのようなことが起こってしまったのか疑問だというふうな声を多く聞いています。きちんと審議をしていただき、明らかにしていただくことを望みたいと思います。</p>
委員	<p>証人と参考人として出頭する可能性があるから、この場での発言は問題だという意味合いだと思うのですが、そうであったとしても、事実を説明していただくということであれば、審議会と 100 条委員会とは相反することもないはずだと思うので、特に審議会において取り扱わないとする必要はないのではないかと思います。</p>
事務局	<p>先ほど御説明させていただいたとおり、本審議会での発言が調査特別委員会での審議、調査のほうに影響が及ぼす可能性もあります。そういった意味では、調査特別委員会に調査していただくということになります。私どもとしては適正に認可等の事務を行ってきて、特に瑕疵もなく違法行為なくして行ってきたということは、前回の審議会で説明させていただきましたので、それ以上の御質問等については控えさせていただくということになります。繰り返しになりますが、調査特別委員会のほうで調査が行われるという、そういった立場ですので、御理解いただければと思います。</p>
委員	<p>審議会で調査しようと思っているわけではなく、3 月 18 日に市から説明のあった以外に 100 条委員会で明らかになることがあるのか、この審議会での発言が 100 条委員会に影響するということなのか、事実を事実のまま述べるのであれば問題は無いと思うが、何か隠そうとしているとか、恣意的なことをしようとしているのではないかと、思ってしまう。ただ説明していただけたら、この審議会で長期間扱わないことにしなくてもいいと思います。</p>
事務局	<p>繰り返しになりますが、恣意的なことということではなくて、前回審議会で御説明したことがすべてですので、これ以上の調査になりますと、やはり調査特別委員会の権限に基づいてより細かくといいますか、より踏み込んだ審議になるのかなということです。我々としてはきちんと適正に行ってきたというところは変わりなく、今後、その調査される過程で、我々はどちらかというと、調査特別委員会の委員に調査される側の立場ですので、ここでの発言なり、調査特別委員会での発言がかなり重要視されているところです。調査特別委員会も、まだなにせ途</p>

	<p>中のことですので、調査の方向性といったところも見極めながら、調査結果が出た際には委員の皆様にご説明するということで考えています。御理解のほどよろしくお願い致します。</p>
委員	<p>説明いただくのを待ちたいと思います。</p>
委員	<p>今の説明はそういうことだと理解するしかないと思います。私が疑問に感じるのは、前回の審議会では、議事ではなくて、その他のところで報告があったと思うのですが、前回の報告や委員の意見がホームページで公表されるものなのかどうかです。そこが大事なところで気になっています。</p>
事務局	<p>前回この園庭縮小の件については、その他の議事ではなく、議事6の保育園の新設という中で説明したものです。この会議のやりとりについては、市ホームページのほうで公開していますが、園庭縮小の件についても同じようにホームページに掲載し、その原文については委員の皆様にご確認いただいています。</p>
委員	<p>それなら良いですが、きちんと伝わるのが大事だと思いますし、私も先ほどの委員と同じで少し疑問が残りますが、きちんと審議をして、何が起こったのか、どういう対応をしたのか、そしてどこに誰の責任があるのか。こういうことが明らかにならないと、私たち同じような仕事をしている者としては、次にどこを指針にやっていくのかがなかなか難しいため、今回のようなことがないように、対策も考えていただいて進めていただき、また報告などもお願いします。</p>
委員	<p>この100条委員会というのは、基本的にだいたいが長くなるものですか。</p>
事務局	<p>すみません。私どもは、こういった日程で進むのかということは存じ上げていないと言いますか、調査特別委員会のほうで審議されているものですから、そちらで日程と審議の内容等が決められてます。</p>
委員	<p>前回のこの審議会でもかなり意見が出たので、100条委員会でさらにいろいろ調査していただいて、原因と今後の方針をきちんと出していただいて、審議会にはその報告をいただければよろしいのではないかと思います。</p>
委員	<p>1点目は、100条委員会の調査期間のおよその目安があるのかどうかと、前回の審議会でも各委員からの質問、例えば建築関連の部署との情報連携など、様々あったと思うが、例えば100条委員会の中でそういう質問が取り扱われるのか。また、100条委員会が終わった後に我々委員のほうからの質問を別途受けていただけるのか、委員会後の流れに関しても教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>調査特別委員会の目安というところですが、先ほどもお答えさせていただきましたし</p>

	<p>たとおり、調査特別委員会で審議をされるものですから、我々のほうでは全体のところについては承知していません。前回の審議会の内容、いただいた御質問が反映したかどうかというところについては、審議の内容に関わりますので、控えさせていただきたいと思います。三つ目の方法については、先ほどお話をさせていただいたとおり、審議が終わって、報告の段階ということになりましたら、どういった審議がされて、どういう報告が出たかということ、この審議会の場においても、報告できればといまの所は考えています。</p>
会長	<p>この件は市議会で調査特別委員会が設けられ、今調査が進んでいるということで、その推移を見守りながら、調査終了後にはこの審議会にも御報告いただくことを確認しています。</p>
(2) 学童クラブの現状について	
会長	<p>議事の2学童クラブの現状について説明をお願いします。</p>
事務局	<p>学童クラブの現状について、御説明します。資料1を御覧ください。</p> <p>はじめに、1の「令和4年4月1日現在の入会状況」について説明します。</p> <p>上の表には、公設学童クラブ40クラブの名称、学童クラブ条例上の定員、令和4年4月1日現在の登録児童数を記載しています。</p> <p>このうち、39番の「上宿小学童クラブ第一」については、令和4年度の入会募集の結果、申込者数が3人と少数であったことから、令和4年度も休クラブとし、「上宿小学童クラブ第一」の申込者は「上宿小学童クラブ第二」で保育をしています。このため、資料では「上宿小学童クラブ第一」について「休クラブ」と表示しています。</p> <p>表の右下部分の合計欄を御覧ください。条例上の定員は合計で1,730人、登録児童数は2,154人と、定員を424人超えて受け入れています。こちらは、就学児童数の増加や共働き世帯の増加により、学童クラブへの入会希望者が増えたことによるものと捉えています。</p> <p>また、表の下※印に、昨年度の入会状況を載せていますが、令和3年4月1日時点の登録児童数は2,020人でしたので、前年度に比べ134人の増加となっています。</p> <p>次に、民設民営学童クラブの4月の入会状況について説明します。上から2番目の表を御覧ください。こちらは市が補助を行っている民設民営学童クラブの表で、4クラブの名称、定員、令和4年4月1日現在の登録児童数を記載していま</p>

す。令和3年度は2クラブでしたが、令和4年度から新たに3番のウィズダムアカデミー小平花小金井校ネクサス、4番の学童クラブアウラ小平スクールが開設となり、4クラブとなりました。

表の下部分の合計欄を御覧ください。4クラブの合計の定員157人に対して、登録児童数は142人となっています。

次に、2の「計画の進捗状況について」です。一番下の表を御覧ください。こちらは、令和2年度にスタートした第二期子ども・子育て支援事業計画の対象期間となる、5年間のそれぞれの確保方策に対する確保数の状況を示しています。

令和4年度は、確保方策としましては43か所のところ、確保数は44か所、このうち公設学童クラブが40か所、民設学童クラブが4か所となっています。

なお、令和4年度は、令和5年度に新たに開設する民設民営学童クラブ2クラブの募集を行うため、表の令和5年度の部分では、確保数が2か所増えて46か所の予定となっています。

おわりに、3の「令和4年度当初予算について」ですが、学童クラブ事業の予算総額は、9億6千97万5千円です。予算編成時点の想定児童数は2,140人で、児童1人当たり月額経費を計算しますと、おおむね37,000円となります。

最後に、資料には記載していませんが、3点、口頭でお知らせします。

一点目は、上宿小学童クラブ第二の指定管理期間満了に伴う指定管理者の募集です。

現在、指定管理者が運営している上宿小学童クラブ第二の指定管理期間が本年度末で終了となるため、令和5年度以降の指定管理者の募集や選定を行う予定です。

二点目は、学童クラブ条例の一部改正です。

小平市立二小学童クラブの入会児童数の増加に対応するため、現在、プレハブ棟で運営している学童クラブを小平市立二小学童クラブ第一、小平市立小平第二小学校から借用して、学童クラブとして使用している体育館準備室を小平市立二小学童クラブ第二とする、学童クラブ条例の一部改正について、小平市議会の6月定例会に議案を提出する予定です。

三点目は、指定管理者制度の導入です。

二点目の条例改正が市議会で可決された場合、プレハブ棟で運営している小平市立二小学童クラブ第一の直営クラブについて、保護者のニーズが高い延長保育

	<p>を行うために、令和5年度より指定管理者制度の導入を行いたいと考えています。また、現在、プレハブ棟で運営している小平市立十三小学童クラブ第一の直営クラブについても、延長保育を行うために、令和5年度より指定管理者制度の導入を行いたいと考えています。</p>
会長	<p>口頭での追加された報告も合わせて、皆さんのほうで質問や確認したい点がありますか。</p>
委員	<p>民設民営学童クラブの学童保育じゃんぷ小川クラブが、定員に対して登録児童数20人と、半分程度になっているのはなぜですか。じゃんぷ小川クラブは、対象校が小川駅周辺の小学校だと思いますが、全市的に通えるような方策、マイクロバスを運営するとか、そういった考えや予定はありますか。</p>
事務局	<p>学童保育じゃんぷ小川クラブ対象校は、6小と13小の2校となっています。ただ、この2校は、じゃんぷ小川クラブのほうで、徒歩での送迎を行う場所となっていて、お子様が自分で通える場合は、他の小学校からでも通えることにはなっています。ただ、他の民設民営学童クラブは車での送迎を行っていたり、場所が駅から近いとか、一つの学校の通学路上にあり場所の面で使いやすいというところもあって、登録児童数が最初から定員に近いところがあるのですが、じゃんぷ小川クラブについては、ちょうど6小と13小の間というようなところで、地域のニーズにもよると思うのですが、今のところ20人となっています。民設民営学童クラブを導入するときに、事業者からいろいろ話を聞いた中では、開設から1年、2年と児童を少しずつ増やしていくのが今までの例という話を聞いています。昨年は12～3人くらいだったのが8人ほど増えましたので、ここで地域に根差していけば、来年、再来年と人数が増えていくものと考えています。逆に言いますと、他の学童クラブのほうで初年度にかなり多い人数になっているという印象を持っています。車での送迎については市からも聞いてはみたのですが、車での送迎を行うかどうかは、事業者の判断となります。</p>
委員	<p>民設民営学童クラブに入会できる児童の年齢というのは、小学校に設置の公設クラブと同じですか。</p>
事務局	<p>対象の学年は基本的には1年生から3年生を原則としていただくようお願いしています。ただ、定員に余裕がある場合は高学年も受け入れるということをお願いしているので、高学年で入っているクラブもあります。</p>
事務局	<p>公設クラブは1年生と2年生と3年生の比が4対3対2で、民設民営の場合は圧</p>

	倒的に１年生が多くなっていて、今年出来たクラブはほとんどが１年生です。その学年がおそらくそのまま２年生に上がっていくので、来年は２年生、再来年は３年生がいっぱいになると思いますので、１年目で埋まってしまったクラブは定員がいっぱいということになります。
委員	そのバランスというか決まっているとおりにはなかなか行かないと思いますが、せっかく出来たところなので、利用者がきちんと使えるようになるといいと思います。
委員	１３小や２小のところで、延長保育のニーズに対応するという点がありました。延長保育は、保育園や幼稚園で行っていることから、保護者にはそのニーズがあると思いますが、その基準というか、どれぐらいニーズがあると延長保育に対応する学童クラブを考えるのですか。
事務局	延長保育を行っている小学校が、現在１９校中１１校と限られていて、理想的には１９校すべてで延長保育と直営クラブの両方を選べる状態にするのが望ましいと思っています。２小、１３小のニーズというよりは、環境が整ったところから延長保育を導入することを考えています。
委員	保護者のニーズはすごく大きいと思うので、今後ぜひそのあたりを検討していただきたいです。
委員	上宿小第一クラブが休クラブとなっていますが、今後の予定は決まっていますか。
事務局	学童クラブの入会については、年度ごとに希望者をお伺いして、人数に応じて運営していますので、令和５年度の入会希望者の人数を見て、必要があれば再開となりますし、人数が少ないようであれば、休クラブになると考えています。
委員	資料３に、当初予算について書かれていますが、予算総額９億円の内訳として、国、都、市がいくら出しているか教えてください。それから児童一人当たりの費用は３万７０００円かかると記載がありますが、このうち平均して、お子さん一人あたりの保育料の負担はいくらですか。
事務局	まず学童クラブ費の使用料として、１億５０００万、国の補助金として１億７８００万で、都の補助金としては２億５９００万。市負担として、一般財源３億７２００万となっています。児童一人あたりの負担ですが、学童クラブ費は月額７０００円となっています。また、兄弟がいる場合であれば、二人目からは月額３５００円となります。
委員	そうしますと、一人あたり毎月３７,０００円のうちの、７０００円をいただいている

	ということですね。
(3) 保育事業の現状について	
会長	議事の3 保育事業の現状について説明をお願いします。
事務局	<p>それでは、保育事業の現状について、御説明します。</p> <p>資料2 を御覧ください。</p> <p>はじめに、1 待機児童について 保育園入園申込み待機児童数の推移ですが、各年度の年齢別待機児童数とその合計をお示ししています。表の最下段、本年4月1日現在の待機児童数は、合計で3 人です。</p> <p>昨年4月1日時点では、8 6 人でしたので、全体で8 3 人の 減少となりました。</p> <p>本年度の数字と令和3年度の比較では、0 歳が0 人で1 人の減、1 歳が3 人で5 7 人の減、2 歳が0 人で2 5 人の減、3 歳、4 歳、5 歳が0 人で増減なしとなり、2 歳までの待機児童数が大きく減少し、待機児童は1 歳児のみとなっています。</p> <p>また、表の右側、就学前児童数については、4月1日時点で、9, 4 7 8 人、前年比 3 5 0 人の減となり、過去5 年間の推移をみると、減少数は、昨年度に次いで2 番目に多くなっています。</p> <p>なお、本年度の入園申込児童数については、4月時点で1, 2 6 5 人(転園、取り下げ、転出を含まず)、昨年度との比較では、5 7 人の増となっています。</p> <p>待機児童の地域的な分布では、西武多摩湖線の西側が3 人で昨年度と比較して1 8 人減少し、東側が0 人で6 5 人減少しています。待機児童がいる地域としては、中島町が2 人、上水新町が1 人となっています。</p> <p>これらの状況を踏まえた今後の待機児童対策ですが、就学前 児童数が減少する一方で、保育所の申込数は、今年度も増加し、今後も高い水準が続くことが予想されます。令和2年度に策定した「待機児童解消に向けた緊急対策」では、令和3年度から令和7年度の5 年間で、市の東南地域の1 歳、2 歳児への的を絞った対策を実施し、引き続き、この緊急対策を進めていきます。</p> <p>しかしながら、これまでの実績に加えて、令和6年4月に、従来型幼稚園である「小平神明幼稚園」と「小平みどり幼稚園」2園の認定こども園への移行により、保育定員を確保できることや、花小金井地域の大規模マンションの入居開始時期の遅れを踏まえて、当初予定していた、令和5年度の東地域における認可保育園の開設を取りやめることとします。</p>

	<p>今後も、就学前児童数や、市内の保育施設の状況などを注視し、必要な保育定員の確保を図っていきます。</p> <p>最後に、資料はありませんが、2件御報告します。</p> <p>まず、公立保育園の私立保育園への移行についてです。仲町保育園と花小金井保育園の2園については、令和6年度に移行園を開設し、0～2歳児を先行して受け入れ、令和7年度に在籍の3から5歳児が移転となりますが、今年度は、昨年度に作成した「移行ガイドライン」に基づき、移行先事業者の公募・選定を行います。</p> <p>津田保育園については、1年遅れのスケジュールとなり、令和7年度に移行園を開設し、1・2歳児を先行して受け入れ、令和8年度に在籍の3から5歳児が移転となりますが、今年度は、「移行ガイドライン」を作成していきます。</p> <p>移行ガイドラインは、移行の基本的な事項を定めることにより、保護者の不安を解消し、円滑な移行を図るとともに、優良な事業者の参入を促し、安定的・継続的な保育運営を確保することを目的に作成するもので、保護者との意見交換会を開催し、保護者の御意見を踏まえ、作成します。</p> <p>次に、市立大沼保育園の給食調理業務委託についてです。令和3年5月に策定しました「小平市における基幹保育園の基本的考え方」に基づき、令和5年1月からの実施に向けて、今月、保護者説明会を開催しました。今後、事業者の公募・選定を行っていきます。</p>
会長	議事3に関して、御意見御質問ありますか。
委員	待機児が解消に向かっているのは良い事だと思います。待機児童数が3人ということですが、既存の保育園に空きはないのですか。空きがある場合、どの程度で、その場合就学までの0から5歳児までの定員の保育園は必要ですか。
事務局	<p>1歳児の待機は3人となりますが、全ての保育園の1歳児定員が埋まっているわけではありません。地域差があり、1歳児に空きがある保育園もあります。それから、3から5歳児についても空きのある保育園があります。これは、令和4年4月に私立認可保育園3園を開園させたためで、新園開設年は、どうしても3・4・5歳児の定員に空きが出ます。つまり、新園を開設した東地域の3・4・5歳児の定員の空きが目立っています。また、東地域だけでなく、西地域、中央地域においても、定員に空きのある保育園があります。市全体では、223人の定員に空きがあります。令和2年4月の待機児童数は159人で、0・1・2歳児</p>

	<p>に多く、令和２年９月に待機児童緊急対策を打ち出し、１・２歳児の定員を拡充するため、１歳児から５歳児までの保育園を整備してきました。今後も、引き続き緊急対策を進めていきます。</p>
委員	<p>２２３名の定員の空きは、３・４・５歳の合計数ということですか。</p>
事務局	<p>内訳ですが、０歳児が１９人、１歳児が９人、２歳児が３人、３歳児が３０人、４歳児が９５人、５歳児が６７人、合計２２３人となります。先ほど説明したとおり、３・４・５歳児の空きが目立ちますが、これは、新園の影響です。</p>
委員	<p>３・４・５歳児というのは新園のみですか。それとも新園ではない既存のところでも地域によっては空きがあるのですか。</p>
事務局	<p>新園だけではなく、地域によってばらつきがあります。</p>
委員	<p>私立幼稚園からすると、定員割れは経営上、大変苦しいことになります。そしてその施設に今後３・４・５歳がコンスタントに増えていく可能性があるのか、それとも２歳児が埋まっているところはそのまま上に皆さん行かれると思うが、そうだとすると結局この人数です。待機児とは別に、３・４・５歳の定員が空いている状態に対して、今後さらに保育園の活用について考えていかないと、保育園も定員割れについては考えていると思うが、幼稚園だとしたら大変なことになります。</p>
事務局	<p>転入等があることから、３から５歳児について、新規の入園申込がないわけではありません。今後、空きが増えていく状況にあるのか、経過をみていきます。</p>
委員	<p>定員割れについては、保育園協会としても、各園や園長会でも話しているところです。３・４・５歳だけではなく、０歳での空きの影響が大きいですが、保護者のニーズというのは０歳だけではなく、３・４・５歳児で幼稚園での預かり保育を利用している、もっと長い時間預けたいということもあります。また、保護者が選択して希望する施設に入れるということも重要であり、それができるよう運営していきたいが、保育園としても待機児対策にさまざまな協力をしてきた中で、コロナ禍もあり、保護者のニーズと量の見込みは難しかったと思うが、もう少し精度が高くないと、保育の質や職員の体制などにも直結してしまうと思います。ニーズがあるからといって、簡単に対応出来るものではないので、もっときめ細かな分析が必要と思っています。</p>
事務局	<p>今年度から、公立保育園の定員について、待機児童の多い１歳児の定員を増やす</p>

	<p>一方で、0歳児の定員を減らし、私立認可保育園の運営支援を行っています。保護者のニーズをしっかりと把握していかなければならないという事は感じていて、待機児童数が多かった時は私立認可保育園にも定員以上に受け入れをしてもらうなど、協力をいただきました。今後、継続して既存園の定員に空きが生じてくる際は、定員以上の受け入れを減らしていくことや、公立保育園の定員を減らし私立認可保育園の運営を支援する検討をしていきます。</p>
事務局	<p>補足ですが、先ほど補佐から御説明したとおり、子どもの人数やニーズなど、そういったところはまだ読み込めないところもあります。子どもの人数は減ってきていても共働き世帯の申込みが増えているという状況でして、年々申込率というのは高くなってきているということがありますので、そういったところも見極めていかなければという点と、このコロナ禍で、だいぶ産み控えと言われているようなものがありまして、来年再来年、戻しというのでしょうか、回復していくのかどうかということも注視していかなければいけないところで、まだまだ待機児童対策は考えていかなければいけないと思っています。ただ、定員割れのところが、昨年度に比べてパラパラと出てきていますので、そういったところの対応を、各保育所、法人と御相談をさせていただきながら、こういった運営が良いのか今後考えていかなければいけないと考えています。先ほど委員からもお話ありましたように、まず今までは保育の受け皿と言いますか、ニーズのほうを重点的に0歳児、1歳、2歳というところで考えてきたところですけど、そういったところから、保育の質、中身のほうも考えていかなければいけないと思っています。例えば、障がい児への対応でありますとか、医療的ケア児の受け入れとか、今までたくさんの児童を受け入れていただいた中で難しかったところを各園にお願いするとか、障がい児の対応で手厚く保育していただくとか、そういったところも含めて、各施設と相談しながら進めさせていただければと考えているところです。</p>
委員	<p>今後の見通しとして、運営側からすると、やはり地域の保護者が安心して子どもを預けて働くことや子育てを実現するためには、各保育園で考え方も違うので、調整を取りながらとなると思いますが、その前の段階として、大きな見通し、市の考えを事前に示していただくことで、運営側も実現の可能性を考えることが出来るので、大きな計画みたいなものを事前に示していただきたいです。</p>
委員	<p>産前産後の上の子の預け先について市に問い合わせたところ、一時預かり、ファミサポ、家政婦などに問い合わせてくださいとの回答でした。この場合、高額な</p>

	<p>費用がかかり、毎日同じ人に預けることも出来ない。また、一時預かりは競争率が高く利用が難しい。働いて産休を取る母親は上の子を保育園に預けられるのに、専業主婦だと預かってもらえない。働いていなくても産前産後に預かってもらえるシステムを作っていたら、小平市で安心して子育てできると思うので、こういったニーズにも対応していただきたいです。</p>
事務局	<p>問い合わせいただいた詳細な状況が不明ですが、保育要件としては、出産の前後2か月で最大5か月をお申込みいただいて、選考にはなりますが、最大5か月間上の子を保育園でお預かりすることができるので、できる限り相談に乗りたいと思っています。その他、出産のときの支援として、例えば入院している期間とか、緊急的に保育を行うサービスも実施しているので、再度御相談ください。</p>
委員	<p>自分が問い合わせをした時の回答は、自分で何とかしてくださいとの印象だったので、預かってもらえないと思ったが、いまの話を聞いて安心しました。</p>
会長	<p>法令上の用語で、現在は『保育に欠ける子ども』という言葉はなくなり、『保育を必要とする子ども』となっています。そういう意味でも、柔軟な対応が求められる状況であるかもしれません。</p>
委員	<p>一点目は、大沼保育園の給食委託の話で、今年度事業者の選定を進めるということですが、こどもの森の問題を調査されていて、その対策が取られない状況下で、他の公募選定を実施するべきではないと思います。もう一点は、こどもの森の問題について今回の対応について少し調べたところ、小平市では、公募選定がどういった基準やメンバーで行われているかや、選定結果が公表されていないと聞きました。私立園移行の事業者選定を進めるのであれば、選定基準や選定する人は誰なのか、どういった選定をしたのかということが公表されるべきだと考えます。</p>
事務局	<p>民間移行の公募選定と、私立認可保育園の新設における公募選定は、仕組みが異なります。民間移行では、選考委員会を設置し、外部の専門家を入れて選考していきます。また、募集要項も、昨年度該当園の保護者と一緒に作った移行ガイドラインを基に作成し、公表します。決定した事業者情報も、市ホームページ等で公表します。私立認可保育園も公表を行っていますが、民間移行とは選考方法等が異なります。</p>
事務局	<p>補足をすると、同じ公募という言葉を使っていますが、意味合いが異なるものです。参入する事業者に対して広く門戸を開いているという意味で、民間移行についても公募という言葉を使っているが、園庭縮小の調査になっている選考は、</p>

	<p>東京都が設置認可をしていくのは同じですが、設置認可をしていくにあたっての事業者の候補者を市のほうであらかじめ選ぶというような意味合いで行っています。その後は東京都のほうで設置認可の手続きを進めていくので、市としては必要な書類を上げていくというような形になります。それに対して、公立保育園の民間移行については、設置認可については、やはり東京都となりますが、公立から民間に移行するのに相応しい事業者を選び、その後も手続きを含めどういった保育園にしていくかというところを伴走型と一緒に、保護者と移行先の事業者、それから市の三者で常に話し合いをしながら進めていくこととなります。さらに言えば、今回の民間移行については、前回ガイドラインでお示したように、新園の場所を事業者に提案してもらう形ではなく、仲町と花小金井の現在の場所で開園し、市有地を買っていただく方針になっているので、今問題になっているところと同じような問題が起きるということはなかなかないだろうと考えています。</p>
事務局	<p>大沼保育園の給食調理業務委託については、これから事業者の公募となり、プロポーザル方式において事業者を公募・選考していきます。書類の他、プレゼンテーション、ヒアリングを行い、総合得点で事業者を決定していきます。</p>
委員	<p>仕組みが違うということですが、民間移行の場合は募集要項があり、それに対して選定基準や選定メンバーを設定すると思いますが、ガイドラインには特に明確な記載がないと思うので、納得出来ないところがあります。こどもの森の件は、その選定のところがおかしかったのではないかなというのもまだ調査しているところだと思うので、であるならその選定が正しいという根拠は現時点ではない、と感じています。大沼保育園の給食委託については、プロポーザルということだが、これもまさにこどもの森の選定と同じだと思うので、職員の皆さんは一生懸命正しく行っていると思いますが、何らかの対策が取られていない状況で、それが正しいものであるという根拠はないと思います。</p>
事務局	<p>私立認可保育園の新設においても審査基準は設け、公表もしています。民間移行についても、今後、移行ガイドラインを基に募集要項を作成し、公表していきます。私立認可保育園の新設と大きく異なるのは、公立保育園の移行という点であり、このことを評価できる選考基準を平成２８年に民間移行した鈴木保育園のものを参考に作成しているところです。大沼保育園の給食調理業務委託は、今回公立保育園で初めて導入という形になるが、小学校では実施済みであることから、</p>

	先行事例を参考に、現在プロポーザル実施要領等を作成しています。
委員	再確認だが、その民間移行の基準のほうは公表されますか。
事務局	選考評価表も公表します。
委員	基準は公表し、選定委員も公表しますか。
事務局	選定委員についても当然公表します。
委員	公募の期間は決まりがありますか。状況によってその期間が短かったり、ゆとりがあったりというように、何か基準がありますか。
事務局	公募の期間は、事業者に配慮し長めに設定しています。今回の民間移行では、２か月設けることを予定しています。
委員	期間が短いと、応募したいけれども無理というような状況もあるのではないかと以前思いました。例えば問題になっている保育園のときにどれだけの応募期間があったのか。そこが短いとなかなか用意ができない。ある程度の期間を設けていたただかないと、慣れている事業者と初めて応募する事業者ではやはり違うので、同じ事業者がいくつも採択されるとなると危険性があるのではないかと思います。
会長	本日いただいた御意見も参考にしながら、よりよい選考作業を進めていただくようお願いします。
(４) その他	
事務局	次回、第２回小平市子ども・子育て審議会は、令和４年８月３１日水曜日午後１時３０分から、開催場所は小平市役所６階大会議室を予定しています。開催時期が近づきましたら、改めて文書でお知らせをしますが、日程について、議題の内容や新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により変更や中止になる可能性があります。その場合は改めて御連絡させていただきます。
３．閉会	
会長	では以上で、第１回小平市子ども・子育て審議会を閉会とします。オンラインで参加されている皆さんもお疲れ様でした。